

文化財を保存し、補修し、利用に供するという努力は、数年で結果が出るのではなく、50年、100年後にようやく気づかれるという性質のものである。それも「きれいに残っている！」という感嘆だけで終わることもある。正倉院の御物のすばらしさを讃える人は多いが、それらの

御物を現代まで守ってきた責任感と努力に思いを馳せる人は稀である。本学の図書館に蔵されているものは、一部を除いて、御物と比べることができるものは無いが、千年のちには、同じように鑑賞できるものになっているであろう。

(きだ あきよし)



「漉き繕い」の方法で補修された『前定男命易数』 左：修理前、右：修理後

平成19年度 公開企画展

古典籍がよみがえる - 京都大学貴重資料修復記念展 -

長い歴史をもつ京都大学には、たくさんの貴重な古典籍が所蔵されています。私たちは、これらを研究対象として利用しながら、文化遺産として大切に保存してきました。それでも、長期間の保存や利用による劣化は徐々に進行し続けるため、京都大学では、計画的に貴重資料の補修事業を実施してきました。このたびの修復事業により、附属図書館、文学研究科、総合博物館が所蔵する多くの貴重な古典籍をよみがえらせることができました。これを記念して、修復事業の成果を学内関係者および一般市民に広く公開するとともに、古典籍を後世に伝えるために必要な補修・保全の方法を紹介することを目的として、京都大学貴重資料修復記念展を開催します。

主 催：京都大学図書館機構

開催期間：12月4日(火)～12月24日(月)

開催場所：京都大学時計台記念館1階企画展示室

展示内容：修復資料「漢書抄」(重要文化財)外7点(附属図書館蔵)

「琉球資料」(文学部蔵)、「広輿考」(総合博物館蔵)

修復の実際(作業工程等のパネル展示)